

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 汎用的な実証基盤体系を利用したシナリオ対応型分散協調 EMS 実現手法の創出
2. 研究代表者： 林 泰弘 （早稲田大学理工学術院 教授）
3. 中間評価結果

太陽光発電、蓄電池、燃料電池、ヒートポンプ給湯機、車載蓄電池を搭載した自動車などの次世代エネルギー機器が多様な形で設置され自律分散的に制御される住宅・マンション等集合住宅・商業・オフィスビル等における EMS、及びこのような需要家への面的な電力安定供給を効率的に担う中央制御型の配電系統の EMS を主な対象とした次世代協調型 EMS 実現手法の創出を目的としている。実用性を担保しながら研究を進めており、電力会社と協働して、実際の配電系統の情報に基づく配電系統解析のための計算機シミュレーションモデルの開発や実際の配電網を活用した配電損失最小化手法の開発等、学术界、産業界の双方にとってインパクトの高い研究開発を推進している。また、NSF/DOE CURENT プログラムやミュンヘン工科大と補完的な国際連携を推進しており、研究成果に対する期待は高い。

今後、研究計画を着実に遂行し、応用展開や系統から需要家までの統合化も含め、他チームとの連携・融合の役割も大きく期待したい。